

## 抗 GPCR モノクローナル抗体の発売について

株式会社トランスジェニックは、当社独自技術である GANP®マウス技術(高親和性抗体作製技術)により開発した抗 GPCR モノクローナル抗体製品を研究用試薬として、2009年11月4日に発売いたします。

このたび発売する抗体製品の詳細は以下のとおりです。

製品名	容量	適用	価格(税込)	製品コード
Anti Human NPFFR1 Monoclonal Antibody (Clone No. 2A10)	50 µg	ELISA,IHC	57,750円	<a href="#">KX564</a>
Anti Human HRH4 Monoclonal Antibody (Clone No. 2D5)	50 µg	ELISA,IHC	57,750円	<a href="#">KX565</a>

◆発売開始日：2009年11月4日

◆販売方法：契約代理店（コスモ・バイオ（株）、フナコシ（株）、和光純薬工業（株））を通じ販売します。

◆詳細情報：製品詳細につきましては、製品データシートをご参照ください。  
製品コードをクリックいただくと、製品データシートをご確認いただけます。

◆ご参考：Gタンパク質共役型受容体（GPCR, G-protein-coupled receptor）  
生理活性物質という、ホルモンなどのからだの中で働きをもつ物質の多くは、細胞の表面に存在する受容体という受け皿に結合して働きます。この受容体は、細胞の外側からや内側からの生理活性物質による刺激を受けとり、情報として利用できるように変換する仕組みを持っているタンパク質です。その中で、1本のタンパク質が細胞膜を7回繰り返して貫通する構造を特徴とするのがGタンパク質共役型受容体（GPCR）です。ヒトには700～800のGPCRが存在するといわれていますが、そのほとんどが結合する生理活性物質もまたその働きも不明です。GPCRは様々な疾患に関与しているといわれ、その対象疾患の領域は中枢神経系、内分泌系、循環器、呼吸器、泌尿器、消化器、生殖器など多岐にわたっています。その未知のGPCR群は、基礎研究のみならず創薬研究の標的となっています。

### NPFFR1 (neuropeptide FF receptor 1；ニューロペプチドFF受容体1) (NPFF1,NPFF1R1, GPR147)

ニューロペプチドは、神経内に存在する神経伝達物質で、摂食や痛みの調節に関与するペプチドです。その一つであるニューロペプチドFF(NPFF)は、その受容体であるNPFFR1やNPFFR2に結合して情報を伝え、痛みの調節を行ないます。NPFFR1は、主に中枢神経系に存在することから、NPFFR1のはたらき調べることで、痛みなどの中枢神経に関わる疾患の薬剤開発の可能性が期待されます。

### HRH4 (histamine receptor H4；ヒスタミン受容体4) (HH4R,GPRv53,GPR105)

ヒスタミンは、アミノ酸の一種で、その受容体であるH1型～H4型の4種類のGタンパク質共役型受容体に結合し、それぞれの受容体を介して種々の生理作用を発揮します。受容体H1型は炎症やアレルギー疾患に、H2型は胃酸分泌に関与することが解明されており、H1型に作用する抗アレルギー薬やH2型に作用する胃腸薬が開発されています。H4型は、脾臓や胸腺等に存在することから、免疫機能への関与が示唆されており、H4型を介した新たな免疫調節の薬剤開発の可能性が期待されます。

以上

本件に関するお問い合わせ先：

株式会社トランスジェニック IR担当 TEL 03-5524-6152